



VOL 38

2010年8月号

発行2010年7月28日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

武甲山エクスペディション

遠山 元信

平成2年夏頃、ある山岳関係の80歳になる知り合いから、「遠山、もう武甲山へ一人で登れない、最後だと思ふから連れて行ってくれないか」と、悲壮な声で連絡があった。当時まだ30代半ばの私には予想外の話に驚かされたが、もちろん返答はOK。そこで、「どうせならば強力な遠征隊を編成し、みんなで武甲山へ登りませんか!」と提案、偶然にも他に登山経験が長い80歳の方が二人いるので、この方も誘うことにして早速連絡してみた。いずれの方も行きたいと言う返事に、80歳の老人3名を武甲山に登らせるために遠征隊を編成したのである。

その80歳の方々は、武甲山に登るのに問題ない体力、技術、経験も豊富で、もし体調不良になったり、動けなくなると怖いという不安感から依頼してきたのである。

その三名の老人とは、最初に依頼してきた方がMS氏。日本山村民俗の会発起人の一人で、戦前の丹沢の各種ガイドブックと言えば、この方が著者であることが多く、山岳修験の研究と地名の研究では戦前から著名。戦前の東京周辺の登山関係者の名前がポンポンと出てきた時は、このおじさん何者と驚いた。

二人目は、埼玉県某市の米屋のお爺さん。名前はMK氏。弟と二人で、すでに昭和五年ごろ黒部溪谷を歩いていたという話と、息子さんは埼玉県庁山岳部の部長だと言うのが自慢話であった。残念なのは不整脈の気があるってニトログリセリンを常備していたこと、しかしよく歩く白髭のお爺さんであった。

三人目は、東京都北区に住み元郵便局に勤務していたSY氏。戦前から山を歩き、山字名や地図に対する研究はかなりのもの。「遠山、読図と山歩きは人生のようなものだ。迷うことが面白くなれば読図は占めたものだ。迷いの醍醐味だよ、この一言で自分の登山の方向性が定まった感じがした。没後に息子さんが『地図にない道』という遺作集を発行した。

この三名は偶然にも明治43年(1910年)生まれ。白瀬中尉が南極に出発した年でもあり、同年代の登山者として著名なのが元日本山岳会会員であった坂倉登喜子氏。この三名の老人は「オトキさん」と呼称していた。

この3名のスーパー爺ちゃんに共通していることは好奇心旺盛で、よく歩き、研究熱心。どんな人の意見にも謙虚に耳を傾けることだ。



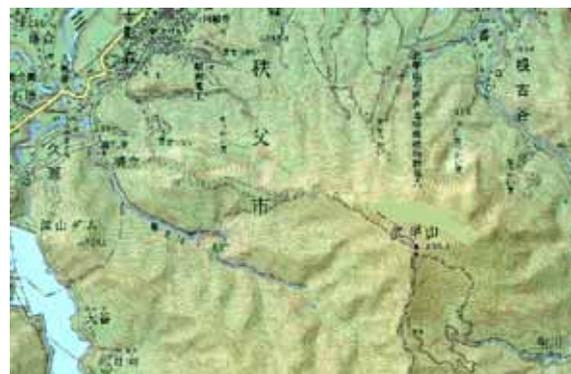
さて遠征隊について説明しておく。問題は80歳の老人3名を、如何に登らせるかであり、もし事故が発生した時、如何に下界に連絡し山麓に降ろすか。当時まだ携帯電話が無かったのでアマチュア無線の赤城山レピータを利用して連絡する方法と、下界まで二人が走り、他の方は担架を作製し大勢で降ろすことまでも検討した。この老人を安全に歩かせるには、ふらつきや、スリッパを少しでも防止することであり、一人の老人の前後に一人ずつ隊員を付かせ常に状況を判断し、時には注意したりして声を掛けるようにし、これだけで計6名の人員を要した。他に計画日が11月23日のため、武甲山山頂では気温が低く、山頂での休憩時に暖かいものを出すため食料係りを決めコンロを、必要であればフィックスザイルも張ることを想定しザイル、そしてツェルトも持参、

一般会員は山仲間から募った。

ルートは表参道の生川から山頂を経て浦山口に下ることにした。生川までは西武秩父駅からタクシーを利用、そこから登山開始となった。総勢15名の登山隊。先頭と最後尾は無線で連絡しながらゆっくり進み、老人3名と付き添い6名は先頭直後を歩いてもらった。他の登山者より歩みが遅いのは仕方なく、とにかく安全第一に登り、なんとか山頂に到着し昼食。寒かったが3人とも至って元気であった。下山は、浦山口へ下り、どうしても早くなる傾向があるので、もっとゆっくりゆっくりと声を掛け合いながら、なんとか山麓の林道に下山、浦山口駅へと辿り着く事ができた。

このスーパー爺ちゃん達、その後も元気だったが、声を掛け合ったように90代になって連続で他界。今の言葉なら介護登山であるが、老人側も付き添い側も真剣なラッシュアタックの武甲山エクスペディションであった。

このスーパー爺ちゃん達、その後も元気だったが、声を掛け合ったように90代になって連続で他界。今の言葉なら介護登山であるが、老人側も付き添い側も真剣なラッシュアタックの武甲山エクスペディションであった。



行ってきました

**多摩川・荒川分水界 棒ノ折山～黒山～名取峠
北野 忠彦**

2010年7月2日(曇り、午後雷雨)

天気心配だったが雨にはならず、青梅線の車内で片野さん、寺田(美)さんと一緒になり8:54 沢井駅に降りると、すでに川口さんが来ていた。9:27 のバスは土・日のみで、平日は9:58 とのこと。仕方なく4人で歩き出したが(9:10)、これではぼ一時間の遅れが出たことになった。北川橋からは真名井沢まで大丹波川の右岸をとる。バス終点の清東橋で小憩(10:15)、奥茶屋手前、左手の高みの上に、1/25000 図には載っていない、三角点のない三角点標識が立っていた。奥茶屋(10:40)は人気が全くなく閉まっていた。しばらくわさび田に沿って登りやがて沢から分かれ、スギ林の中の階段状の急登を上がる。落葉樹が出てきたところで休憩(11:30)後、もう一息で棒ノ折山についた(12:25)、一面のガスで何も見えない。昼食休憩の一時間の間、単独を含め6パーティほど10人弱が山頂を訪れただけだった。時間も遅れており、天気もよろしくないのでコース変更も考えたが、せっかく分水嶺に立ったのでほぼ予定のコースをとることにし、13:15 黒山に向けて出発。腐れかかった木の階段の上に雨で土砂が押し流された道が歩きにくい。黒山13:45。直進すると小沢峠に向けて都県堺尾根、右に下れば分水界で、ここからは細かな上り下りを繰り返す。逆川の丸の先で休憩(14:50)雲行きも怪しくなり遠雷も聞こえてきたので早々に出発する。やがて雨が降り始め次第に強くなるとともに雷鳴が近づいた。完全に雲の中に入り、20m先は見えないくらいで、しかも夕暮れ時の暗さになった。雷雨が激しくなったので、現在地の確定ができないまま低姿勢をとって樹林帯の中で雷雨をやり過ごす。30分ほどで(思ったより早かった)次第に雷雨が収まり空も明るくなってきたので出発する(15:55)、名取峠はすぐそこだった(16:05)、ここからは5月に下った道を下り、バス停の八桑 16:45、前回も寄った、マス釣場入り口にあるただ一軒の食料品店で缶ビールを仕入れ無事下山を祝い乾杯した。あとは、朝の道を下り川井駅に16:45 に到着、濡れた衣類を着替え帰途についた。これで井の頭公園から棒ノ折山まで分水界をつなげることができた。参加者:片野、川口、寺田(美)、北野

トバタ崩れ

近藤 善則

山研委員会のおかげで上高地に行く機会が多くなった。松本から梓川を西に向かうと島々あたりから次第に両側が狭くなり、幾つものトンネルの連続になります。現在松本電鉄の終点は新島々駅ですが、かつては赤松駅という名前で、島々駅は1km ぐらい先の狭い所にあったそうです。豪雨による土砂災害が起こった為に赤松駅が新島々として、現在に至っているわけです。現在国道158号線は奈川渡から北上して上高地の入口、釜トンネル前を西に安房トンネルを抜けて高山に入るわけですが、この奈川渡付近にかつてトバタ崩れと呼ばれた大規模な地すべり崩壊があった事を知り、上高地への行き帰りに注意深く車窓から見てみるものの、どこがそれなのか皆目分かりませんでした。それもそのはず現在は梓湖に沈み崩壊上部は158号線、親子滝トンネルの上にあるためです。

この崩壊は1757年(宝暦7年)の豪雨によるもので、梓川が塞ぎ止められ天然ダムが発生。いつ崩壊するか分からない状態が続いたとの事、下流の里が被害を受けるのは必至でした。しかし奇跡的に一人も被害がでなかったそうです。それは上流で破水がでたら、すぐに鉄砲をならし里まで合図を繋げていったことが成功したと「梓川大満水記」に記されたも

のでした。音による伝達の貴重な文献があることを、上高地を通じて知ることができました。

行きましょう

浅間山北麓の火山地形と草軽鉄道跡

浅間山北麓の火山痕跡と草軽鉄道跡を尋ね、浅間山外輪山に登ります。

日時:平成22年10月9日(土)~10日(日)

集合:軽井沢駅9:30(旧軽井沢駅舎記念館前)

主な行程:(10/9) 軽井沢駅舎、長日向駅跡、峰の茶屋火山観測所露頭、浅間園、国境平~二度上跡、北軽井沢駅舎跡、鎌原観音堂、大笹交点、溶岩樹形(宿泊:ログペンション)
(10/10) しゃくなげ園~浅間山・鋸岳往復、車坂峠、菱野温泉、松井農園 解散:佐久平又は軽井沢駅(車での移動を予定しています) 地形図:2.5万 北軽井沢、浅間山

詳細は8月定例会にて 問合せ:担当 近藤

例会の議事録 7月定例会記録

2010年7月14日(水) 19:00~20:00 於JAC A2会議室

出席者14名【北野 平野 近藤 片野 半田(由)、寺田(正)、寺田(美) 高橋、鶴田(泰)、大西、川口、関、羽間(見学)、今井(順不同)】

内容: 6月20日に行われた同好会連絡会時に、総務委員会から示された「ルム利用と事務手続きのお願い」、「同好会規程」等の説明と文書回覧。(北野) 7月2日に分水界踏査のうち棒ノ折山から岩茸石山区間を行った。詳細はAGCレポートに発表(寺田(美)) 国土地理院登山道調査担当官が交替し、挨拶に来所した際、概略示されていた当初の計画のうちの一部は、すでに外注の業者によって終了している等状況が変わってきている模様。詳細は近日示されるとのことである。(北野) AGC発足から10周年記念、またはAGCレポート40号記念で「私と三角点」をテーマにAGC全会員の原稿を募集したいので準備を願いたい。(近藤)終了後「鯨の家」で懇親会(14名)以上

(記録:今井)

お知らせ

AGCレポート 10周年記念号の原稿募集

AGC・山岳地理クラブが発足したのは2001年3月7日(水)です。当時の例会の記録を捲ってみると「発足の趣旨説明、山の標高や分水嶺についての雑談、日本地図の概略など(参加者10名)」とありますが、具体的な活動方針などは明瞭ではなく、なんとなく集まって発足した同好会でした。現在の登録会員数は37名。なんとなく方向性が見え始めているのではないかと感じられます。

そこでやがて10年の節目を迎えるにあたり記念号を計画します。全員に執筆していただくことを原則に下記の要領で原稿を募集いたしますので宜しくお願いいたします。

テーマ:タイトルに「AGC」または「三角点」と入れてください(内容は自由です) 字数:約1000字+写真もしくは図版1葉 締切:word又はtxtファイルは11月末、手書原稿は10月末 問合せ:担当 近藤

次回の例会

日時 **2010年8月11日(水)** 18:30から
於:山岳会 ルーム

テーマ:山行計画、報告、ほか

AGCレポート vol-38 2010年7月28日発行
発行:日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
編集担当:近藤 E-mail:hikarikon@nifty.com